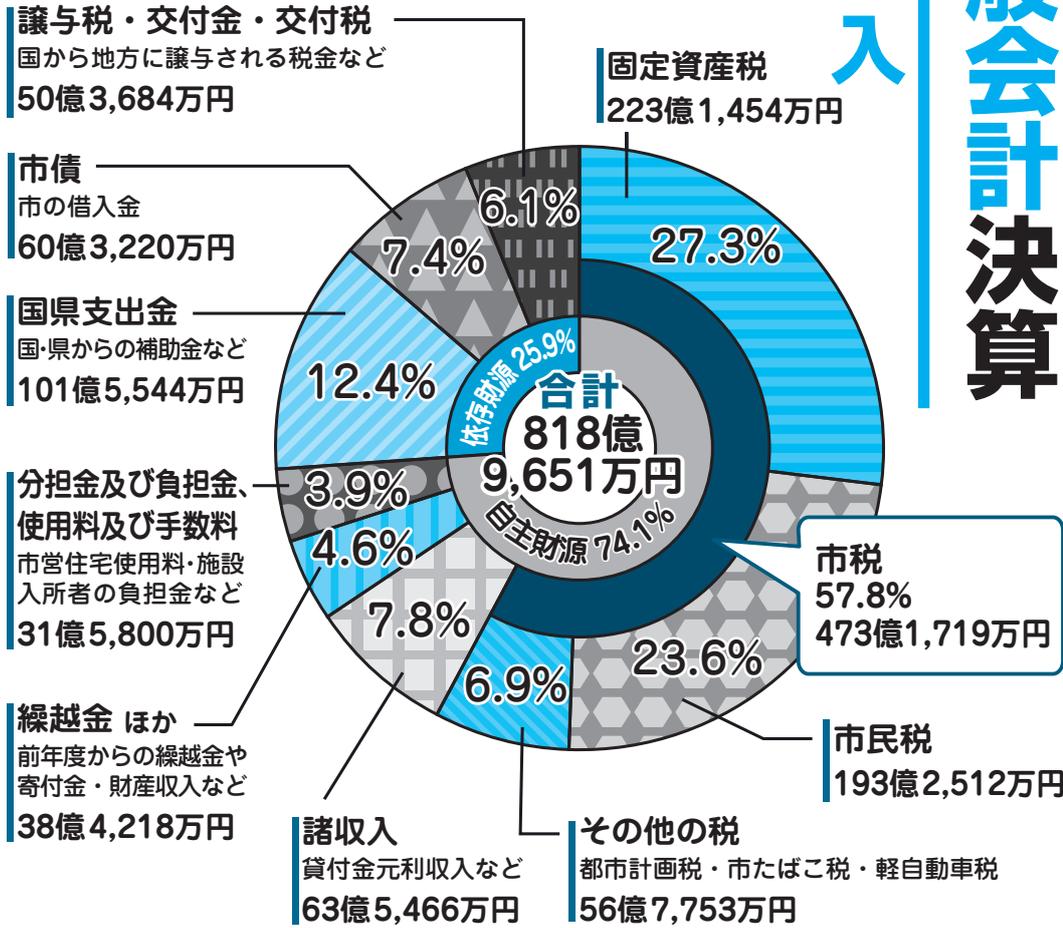


平成20年度 富士市の財政事情 決算報告

一般会計決算

歳入

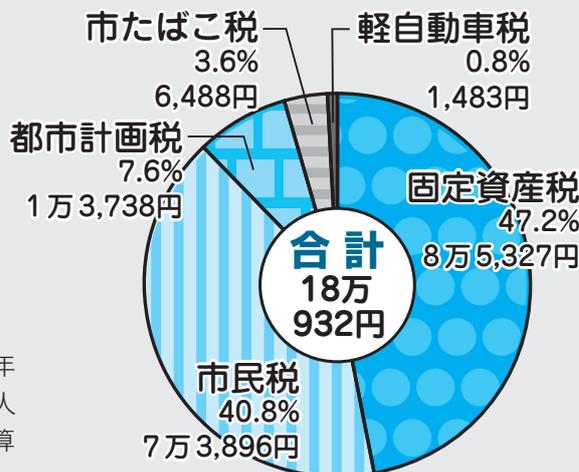


歳入の約6割は 皆さんの市税

歳入の約6割を占めるのは、市民や企業の皆さんから納めていただく市税です。平成20年度の市税の決算額は約473億円で、前年度から約16億円の増加となりました。これは、旧富士川町と合併したことによる個人市民税・法人市民税の増加、及び一部業種の設備投資や家屋の新增築による固定資産税の増加が主要な要因に挙げられます。

※市民1人当たりの金額は、平成21年3月末現在の富士市の総人口（外国人を含む）26万1,519人をもとに計算しています（3ページも同じ）。

市税収入を 市民1人当たりに換算すると…



平成20年度の富士市の決算について報告します。
皆さんの納めた税金がこの1年間でどのように使われたかを確認してみましょう。

歳出

公債費
市債などの償還金などに
78億3,763万円

衛生費
保健医療や
生活環境などに
80億991万円

消防費ほか
消防・防災対策などに
99億9,062万円

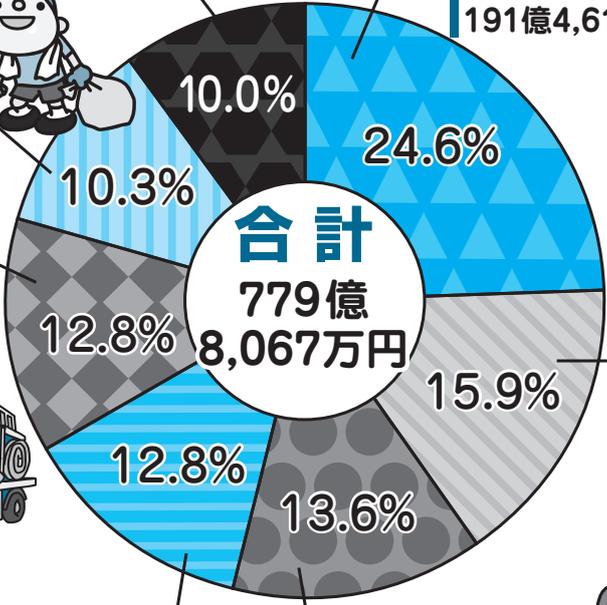
教育費
学校整備や
社会教育などに
99億4,913万円

教育費
学校整備や
社会教育などに
99億4,913万円

民生費
社会福祉などに
191億4,612万円

土木費
道路や河川
などの整備に
124億1,955万円

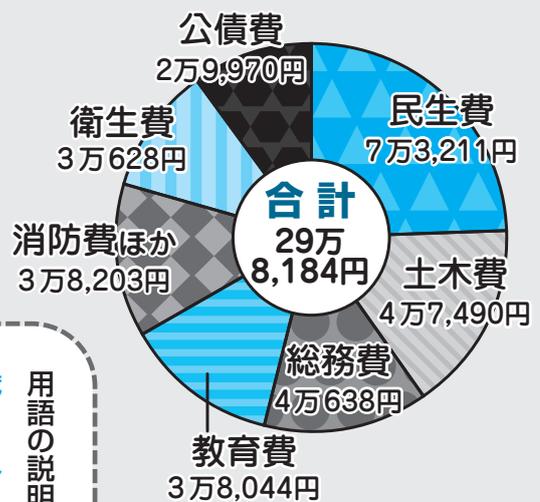
総務費
市民生活や
市の管理などに
106億2,771万円



歳出を市民1人あたりに換算すると...

歳出のトップは 7年連続で民生費

歳出を目的別に見ると、福祉関係の費用である民生費が24.6%を占め、7年連続で一番高くなっています。民生費は、本格的な少子高齢社会の到来を受け、今後も高水準で推移することが見込まれます。



国や県からの補助金などを活用して、市民1人当たりの市税収入の1.6倍以上の行政サービス（支出）を提供しました。

用語の説明

歳入 年度内に入ってきたお金。

歳出 年度内に使ったお金。

自主財源 市が独自に徴収することができるお金。市税、固定資産税、使料や手数料など。

依存財源 自主財源に対し、国や県などから入ってくるお金。国庫支出金、県支出金、地方交付税、地方譲与税、自動車取得税交付金、市債など。

市債 市が大きな建設事業などを行うために、国や銀行などから長期にわたって借りるお金。

国県支出金 特定の事業の財源として、国や県から交付されるお金。